



第3会場●2F 第4研修室

■司 会／岩切 義和 大分県教育庁生涯教育課 主任社会教育主事
広中 郁美 島根県立西部生涯学習推進センター 社会教育主事

1 生活体験塾「あすなる」の「自立」、「協調」、「健康」、「国際交流」プログラム 13:30～13:55

尾形 文昭（長崎県諫早市） ネットワーク「あすなる」 代表

プログラムの核は通学合宿である。参加対象は小学校の4～6年生で通学合宿を体験していないものである。親元から離れての集団生活によって生活の自立を目指している。プログラムの主眼は表題の通り4つの領域に渡っている。各小学校への広報は学校の担任を通して協力を得、国際交流については留学生の協力を仰いでいる。

2 子どもたちとともに歩み、地域と連携するPTA活動の展開 13:55～14:20

古江 信一（大分県中津市） 大分県立中津北高等学校 PTA会長

日常生活の実態が見えにくくなった子どもたちを少しでもよく理解するためには、親の側から関わって行くしかないと感じ、子どもと地域社会とPTAが連携した様々な活動を工夫して実践した。具体的には、PTAと生徒会が連携した夏休み中の「ごみゼロ運動」への参加、父親の学校への関わり、相互の意見交換を深めるための夜間の「おやじの会」の実施、PTAの学校祭への参加事業としての「北校祭もちつき大会」の実施などである。どの事業も参加者の評価が高いので今後の継続を予定している。

ティータイム 14:20～14:55

3 「ふれあいの森なんでも工房」の森林を活用した総合型野外体験プロジェクト 14:55～15:20

村田 真博（山口県周南市） ふれあいの森なんでも工房 事務局長

行政に頼らず6万坪の森にログハウス2棟、作業棟、各種小屋を手作りで建設、元気な子ども、元気な大人を支援、合い言葉は「材料と怪我は自分もち」。目的は総合的学習の支援、高齢者の生き甲斐の場づくり、森の再生など複合的。基本理念は「森は人を育む、人が森を育てる」。会費、指導料は無料。木、竹、紙、土、布、ガラスなどの工房を備え、野外体験のできる条件を備えている。

4 NPOかごしま生涯学習サポートセンター設立の目的と経過 15:20～15:45

後田 逸馬（鹿児島県） 志学館大学生涯学習センター 事務局長

市町村合併劇の中の液状化現象は、まちづくり学習の見直しを強く求めている。昨年1月発足した「まちづくりと公民館研究会」は、住民の意欲向上と問題解決学習を支援するリーダーの資質向上とネットワーク化を求めて、NPOへ発展解消することにした。地域の社会教育活動の継続性を担保するため鹿児島大学を拠点会場として、まちづくりと公民館のあり方の実践的な研究開発を目標としている。行政主導型の社会教育の枠を外して、多様な構成員による会費制の月例研究会、シンポジウム、キャンプや調査などの受託事業を行っている。

5 総括討論 15:45～16:15

PM